



足元に広がる色とりどりの落葉と、朝夕の頬を差す冷たい空気に、秋の深まりを感じますね。11月7日の「立冬」も過ぎ、暦の上では冬が始まっています。風邪を引かないように、温かくして読書を楽しんでください。

11月24日 進化の日



1859年のこの日に、イギリスの自然科学者、チャールズ・ダーウィンの『種の起源』の初版が発刊されたことに由来しています。

📖『ガラパゴスのふしぎ』 NPO 法人日本ガラパゴスの会：著

ダーウィンが『種の起源』を刊行するまでの足跡や、ガラパゴス特有の生態系がどうして生まれ、どうやって進化したのか。世界遺産第一号になぜ選ばれたのかなど、ガラパゴスの情報が満載です。ガラパゴス動物図鑑も載っています。



📖『素数ゼミの謎』 吉村仁：著 石森愛彦：絵

アメリカに13年と17年という長い周期で、同じ地域に大量発生するセミがいます。なぜそんなに長い周期なのか、なぜ同じ地域なのか、なぜ13と17という素数の周期なのか、という3つの疑問に、「進化」という考え方をを使って、わかりやすい文章とイラストで解説しています。

📖『たまごがさきか、ニワトリがさきか？』 七尾純：著

永遠のテーマのようなこの問題に、著者は図書館や科学館へ通い、生命の進化から遺伝子の世界までたどり着きます。ある遺伝子の本には、卵が次の卵を産むためにニワトリを作る、という考え方もあるそうです。



井上ひさし（11月生まれ）



小説家、劇作家、放送作家。30歳の頃、NHKの人形劇『ひょっこりひょうたん島』の台本を共作する。そして、60歳の頃に『四千万歩の男』という、伊能忠敬をモデルにした長編小説を執筆する。

📖『イソップ株式会社』

夏休みをおばあさんの家で過ごす姉弟、さゆりと洋介。毎日届く父からの手紙には、いつも「お話」が書かれています。その「お話」でつながっていく親子の絆と、二人の姉弟の成長物語です。

職業調べ ＊学者・研究者＊

『学術研究者になるには』小川秀樹：編

研究者として活躍している人達の話から、学術研究の現状、研究者の日々の生活についてまで、幅広い情報が載っています。

『科学者という仕事』酒井邦嘉：著

多くの研究者には、共通の考え方や独特のこだわりがあるそうです。アインシュタインやニュートン、キュリー夫人などが遺した言葉とともに、科学者の本質にも触れた内容が書かれています。

この本、読んでみませんか？（図書委員 凰介さんのおすすめ）

『探偵はもう、死んでいる』 二語 十：作 うみぼうず：イラスト

私が今はまっている本は、君塚という主人公が、ヒロインであり探偵のシエスタが死んでしまう未来を変えるために、仲間と敵を倒していく物語です。後半には、君塚達のほのぼのとした日常生活でのハプニングや、君塚の過去についても語られています。読み終わりまでずっと楽しめる作品なので、ぜひ読んでみてください。

